

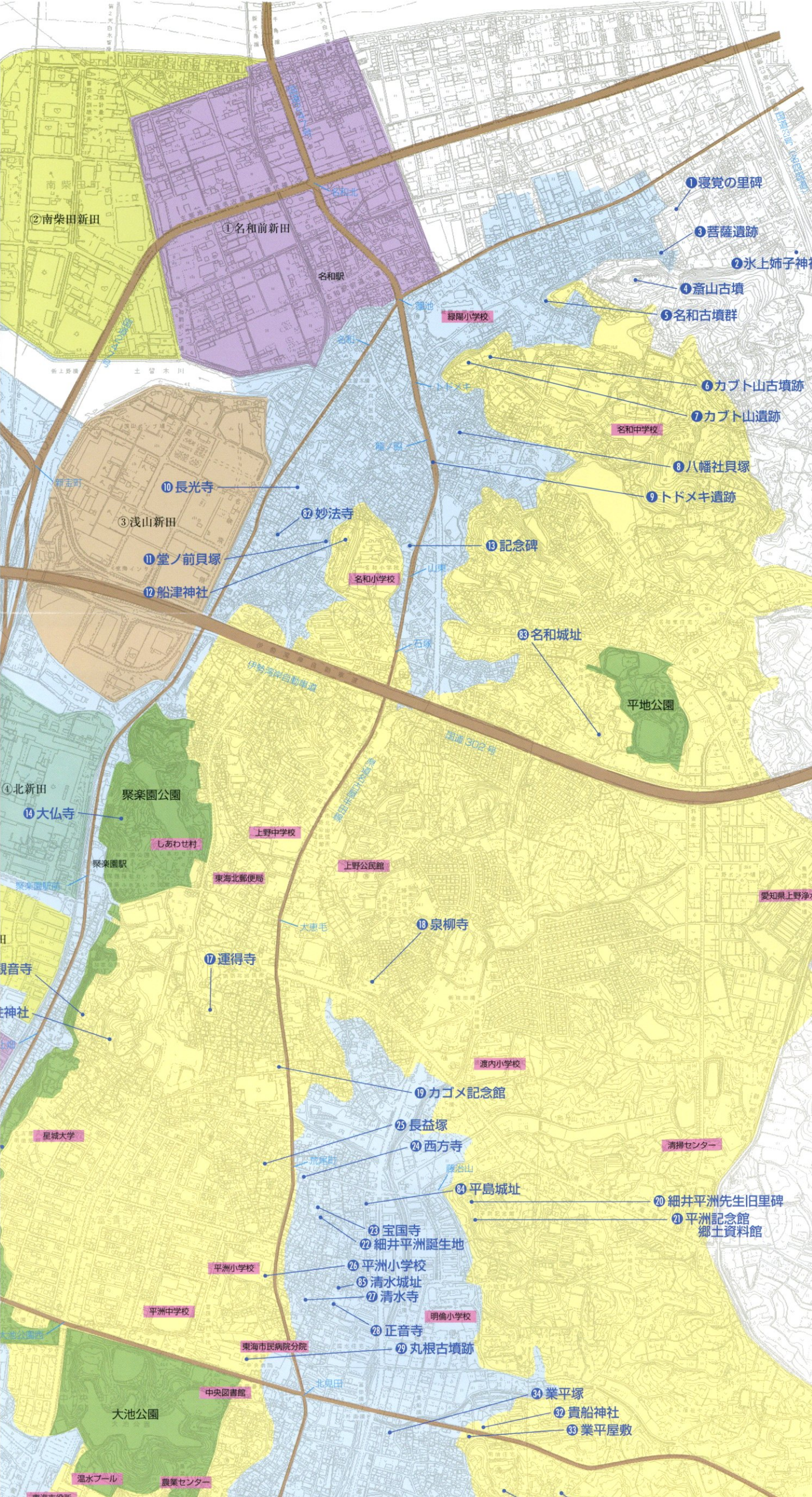
凡例

- 標高 10m 以上
- 標高 10m 未満
- 青文字 (名和北など) は交差点名

名古屋市

南区

至神宮前・名古屋



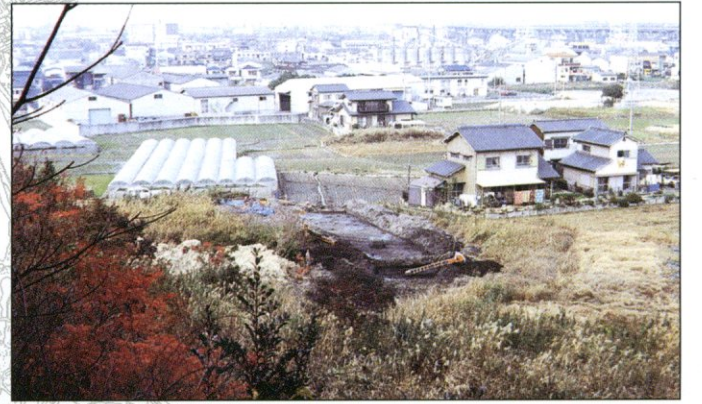
① 寝覚の里 名和町寝覚・名古屋市緑区大高町中之島

名和町のはずれの名古屋市と接するところに、「寝覚」という地名があります。この地名の起こりは、日本武尊と尾張氏の始祖である乎止与命の娘、宮實媛命との恋物語の伝説にゆかりがあります。古代伝説上の英雄である日本武尊が、東国平定からの帰りにこの地にとどまり、宮實媛命と結婚し、しばらくのあいだ安らかな日々を過ごしました。古代にはこの辺りまで海が入り込んでいたことから、日本武尊は、打ち寄せる波の音にしばしば目覚めることがありました。このことから、いつしか寝覚の里と呼ばれるようになったと伝えられています。

このことを書いた寝覚の里碑が、名和町寝覚に接する名古屋市緑区大高町中之島の一角に建てられています。

② 氷上姉子神社 名古屋市緑区大高町火上山

寝覚の里へでかけられたら、少し足をのびしてこの神社にもお寄りください。この神社は、古代に尾張の国造(地方長官)として、火上の地を本拠地としていた乎止与命の館跡に、宮實媛命を御祭神として建てられたといわれています。延長5年(927)に編纂された『延喜式』にも、氷上姉子神社の名前は書かれており、古くから格式のあるお社であったことがわかります。



昭和58年(1983)の調査当時の菩薩遺跡

③ 菩薩遺跡 名和町寝覚

名古屋市緑区大高町に入る齋山稲荷社のある丘陵の北側の平地に、菩薩遺跡が広がっています。区画整理事業に伴って、昭和57年(1982)と翌年に発掘調査が行われ、本市では初めての出土品である平安時代の下駄などの木製品をはじめとして、縄文時代から中世に至る時代の多種多様な遺物が見つかりました。木製品類の一部は、樹脂で保護をして東海市立郷土資料館に展示されています。

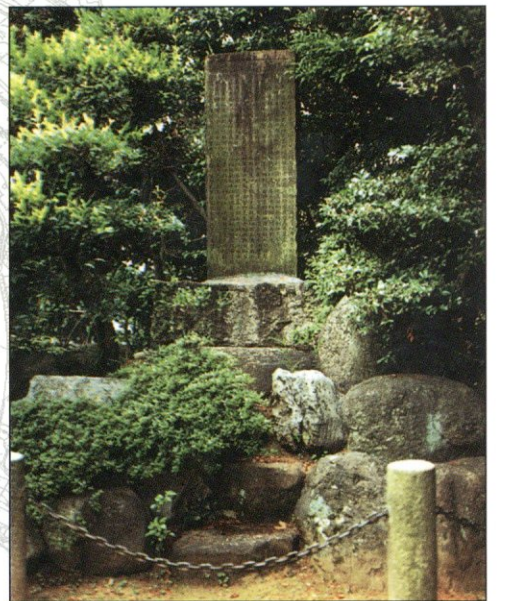
⑬ 名和城址 名和町城谷(伝承地)

⑭ 泉柳寺 荒尾町泉

境内に、死者の罪を裁く閻魔王をはじめとする十王の堂があります。また、江戸時代のたくさんの墓標や石仏があります。

⑲ カゴメ記念館 荒尾町東屋敷

名和村に生まれた蟹江一太郎は、西洋野菜のめずらしかった明治時代にトマト栽培をてがけ、生涯をトマト事業の発展に捧げ、昭和46年(1971)に東海市初の名誉市民となりました。この蟹江氏の記念館がカゴメ上野工場内にあります。見学には工場への予約がいります。



⑳ 細井平洲先生旧里碑 市指定史跡 荒尾町蜂ヶ尻

細井平洲が享和元年(1801)に亡くなると、尾張の門人らが総力を結集して、平洲をたたえたこの碑を、故郷の平島村を見渡す丘陵上に建てました。表題は、平洲と親交のあった木曾福島の代官山村伊勢守蘇門が書き、泰熙らの草した碑文を、平洲の援助者であった名古屋の医師伊藤玄沢の子で、書にたくみであった伊藤墨海が書きました。

㉑ 東海市立平洲記念館・郷土資料館 荒尾町蜂ヶ尻

平洲記念館は、郷土の偉人細井平洲の遺徳を顕彰するための施設として、郷土の歴史資料を展示する郷土資料館とともに、平洲ゆかりの浅間山神明社の緑の多い境内地に、昭和49年(1974)3月に開館しました。月曜日が休館です。館蔵品の観覧館費無料。本館は市指定文化財です。